



合同研修会 著作権法改正の内容とそれがもたらすもの

著作・出版権委員会

委員長 梅澤 俊彦

会員の皆様には日頃、著作・出版権委員会の活動にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、去る七月一三日に当委員会では自然科学書協会、出版学会、大学出版部協会との共催で、「著作権法改正の内容とそれがもたらすもの」と題した研修会を日本書籍出版協会四階会議室にて開催いたしました。講師に日本書籍出版協会事務局長 樋口清一氏をお招きし、当協会からは三一社四七名、総勢一二〇名を超える参加者が集いました。これは五月一八日に参院本会議で可決された改正著作権法に伴う権利制限拡大の出版への影響を考えるもので、

- 一・柔軟な権利制限規定の整備
- 二・教育の情報化に関する権利制限拡大の要望
- 三・障害者の利用拡大に関する権利制限拡大の要望
- 四・アーカイブの活用促進に関する規定
- 五・TPP11に関する関連法改正
- 六・今期の著作権分科会における検討事項

の六つのパートに分けて、現在の権利制限に関する国内の動きや考え方をベースに、今回の著作権法改正の中で出版に関わる部分をご説明いただく内容となりました。

した。

その中でも特に出版界への影響が大きい、教育に係る著作権法（著作権法第三五条）については詳細にご説明いただきました。

著作権法第三五条の改正内容は、現行での教育利用上無許諾・無報酬で複製利用できる範囲において公衆送信（公衆送信を含む）することを利用者が「補償金」を支払うことで認める内容となっています。現行の条文内の但し書きの部分である「著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない」の記述の部分については変更がありませんが、文化庁・文化審議会より「ライセンス」利用できるようなシステムを構築するよう権利者側に要請されています。

今回の改正著作権法の施行日は二〇一九年一月一日とされており、第三五条等関係の改正内容は交付の日（二〇一八年五月二五日）から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日とされており、

現在権利者側では、著作、出版、新聞、写真、美術、音楽等の各関連権利者団体が参加し、幹事団体八団体、会員団体二九団体から構成される「教育利用に関する著作権等管理協議会」を設立し、「補償金」の額やその受け取り方法、または「ライセンス」の一部に関する協議が行われています。「ライセンス」の一部とは、無許諾・無報酬または「補償金」で利用する複製物の利用範囲を拡大する場合（たとえば、学校の一クラスの人数

等を超えて利用する場合）のライセンスであり、利用者（教育者）のニーズが高い部分であるため、特に「基礎ライセンス」として設定し、「補償金」と同時に徴収する案が話し合われています。

「補償金」や「基礎ライセンス」料の徴収・分配は各権利者団体が参加して新たに設立される一般社団法人において行われる予定になっております。

「基礎ライセンス」以外の主な「ライ



著作権 35 条の改正はとりわけ専門書に大きな影響が想定されるため、出席者は聞き漏らさぬよう耳を傾けていた



講師を務められた日本書籍出版協会の樋口清一事務局長

センス」は「専門ライセンス」として設定される予定で出版分野に関しては、現在 JCOPY（出版者著作権管理機構）において構築作業が開始されており、出版界では「補償金」や「基礎ライセンス」の徴収金額の総額について分配作業に係るコストに見合う額になるのか等の懸念も協議されており、

今回の著作権法改正は教育に係る著作権法（著作権法第三五条）の改正が出版界にとってインパクトの大きい部分ではあります。講演ではテキストデータマインニングやデータアーカイブ等についての著作物のデジタル化と利用に関する権利制限拡大やその将来についてもお話しいただきました。著作・出版権委員会と致しまして引き続きこの問題を注視していく所存です。

自然科学書フェア二〇一八 現地視察レポート

今年の自然科学書フェアは、五月二日（土）～六月三日（土）まで、沖縄県那覇市のジュンク堂書店那覇店で開催いたしました。

同店は市の中心牧志に位置し、床面積約二〇〇坪、在庫数約一五〇万冊を有する、沖縄県はもとより西日本においても有数のスケールを持つ書店です。事前の打合せでは「沖縄の五月～六月は梅雨にあたり、他の月と比べて集客は三割ほど落ちる」と聞いたのですが、「だから



ジュンク堂書店那覇店森本店長（中央）と共に南條理事長（中央右）飯塚副理事長（中央左）と視察団一行

こそ」「あえて」の意気込みで開催に踏み切りました。

今回のフェアのメインテーマは、前回に引き続き「知識がひろがる未来が開ける自然科学書フェア」としました。理学、工学、農学、医学、家政学の五分野について、ロングセラーや新刊、好評書を中心に、四七の会員社より一二九二点三九〇七冊の出品を得て、例年にない大きな規模での展開となりました。

店内では、各階にフェアのポスターを掲示し、またチラシ・しおりを配布してお客様を会場へと誘導しました。また、対象商品をご購入いただいたお客様へはノベルティグッズをプレゼントいたしました。棚の構成は、五分野のジャンル別を基としつつ、沖縄の地域性や、テレビ、新聞、ネットなどでいま話題のキーワードを意識した八つの小テーマ「海と魚」

「人工知能」「気候・気象と農作物」「健康寿命」「統計学」「図鑑・辞典」「独学・入門書」「宇宙・地球」を設けてコーナーを作り、来場者の関心・興味を引くよう工夫しました。

他に事前の宣伝活動としまして、丸善雄松堂の協力を得て、近隣の大学や図書館等へポスターの掲示やチラシの配布により周知に努めました。また、開催初日の五月二日には沖縄タイムスに、期間中の六月九日には琉球新報にそれぞれ連合広告を掲載しました。他にも森本店長の地元ラジオ番組出演や、店舗ホームページとツイッターによる告知など多方面から宣伝広告活動を行いました。

また五月二五日には正副理事長をはじめ協会理事・委員が現地を訪問し視察を行いました。その後の懇親会では、森本店長と売場ご担当二名をお招きし、沖縄における自然科学書の販売状況はもとよ



正面入り口横にて大々的に展開されたフェア会場。看板やポップを掲示するだけでなく、ツタのオブジェを棚に飾り付けるなどして、賑やかな雰囲気を出した



奥行きも通路幅も十二分にあるため、ゆったりと選書ができる空間となっている。お客様も入れ替わり立ち替わり現れていた
※客足の途絶えた一瞬を激写したものです

り、書店事情や地域事情などを題材に活発な意見交換が行われました。

先に述べたいろいろな取り組みによって、フェア会場は常に大賑わい、とまではいかないまでも、足を止めてじっくりと選書されるお客様の姿が多く見受けられた、とのこと。また森本店長からは「ぜひまた沖縄でフェアを開催してください」との心強い言葉をいただきました。

フェアの目的である『自然科学書の普及・啓蒙と書店への貢献』を少なからず達せられたのではないかと思います。多数の出品にご協力いただいた会員社の皆様にあためて御礼申し上げます。

また、今回の自然科学書フェアにもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（販売・出展委員会 山内裕）

研修会報告①

自然科学書協会と出版梓会の共催による合同研修会が、七月一日(水) 一時三〇分より日本出版クラブ会館で開催されました。株式会社出版デジタル機構新規事業推進部マネージャーの高橋桐生氏と藤吉信仁氏を講師にお迎えし、「デジタル技術を活用した出版ビジネス支援ソリューションのご紹介」と題して行われました。

冒頭、株式会社メディアドゥホールディングス取締役副社長で、株式会社出版デジタル機構代表取締役社長の新名新氏より、同社が掲げる「パブリッシャーズプラットフォーム」として、電子と紙の両面でこれから新事業を推進していくなかで、今回は次の二つについて紹介



PODについて説明する高橋氏(左)とNetGalleyについて説明する藤吉氏(右)

したいと挨拶がありました。

一、「Pubbridge On Demand(以下、POD)の活用について」高橋氏が講師となり、①サービスの概要、②POD取扱書店の現状、③活用事例などが紹介されました。

二、引き続き「NetGalley(ネットギャリイ)」について藤吉氏より、①NetGalleyとは? ②NetGalleyの現状及び実現

できること、③活用事例の紹介、④これまでの取り組みなどが説明されました。特に「NetGalley」は、二〇〇八年にアメリカで誕生し、昨年一〇月に同社が日本版サービスを開始したもので、出版社が発売前に作品のゲラ(原稿)を影響力のあるプロフェッショナルな読者に提供するWebサービスとして、書店員、図書館員、教育関係者他から注目

されています(当日配布資料でも「期待の声」として一部を紹介)。三、五℃を超える猛暑の中で、当協会からは二三社、三二名が参加、質疑応答を終え定刻の一七時に終了しました。

(研修委員会 都築康人)

研修会報告②

二〇一八年五月一七日(木) 一六時一七時、日本出版クラブ会館・もの間において、当協会主催による研修会「丸善ジュンク堂POSDATAうれ太のご紹介―自然科学書の回転率向上につな

げるデータ活用法―」(講師・丸善ジュンク堂書店営業本部システム開発室室長 平木啓太氏)を開催し、二三社二九名の皆様方にご参席いただきました。

「POSDATAうれ太」は、丸善ジュンク堂書店版BIGNETの後継サービスです。オプション機能としてhonto会員購買履歴分析システムを付加したもので、出版企画・販促促進戦略・広告戦略等の強化に活用できる新システムです。

具体的には、本サービスでは、売上げ発生後一〇分でのデータ更新による情報鮮度の向上や、契約社以外の全社販売実績データも可読となったことに加え、基本サービスの売上ベスト・単品推移・店舗別集計の他、商品/客層分析・併売分析・著作者併買分析等の出版社側からこれまで要望の多かった事項に対してよ



POSDATAについて説明する平木氏

り細やかな新機能を付加、強化されており、その代表的な内容について、実際の事例をもとに紹介していただきました。

平木氏からは、たとえば、併売分析サービスを活用することで、版元同士での共同フェア企画の検討、客層分析サービスを活用することで、より読者対象に寄り添った出版企画を検討することなども可能になり、さらなる販売拡大につながる

のご提案もいただきました。社会全体の趣向の多様化が加速するなか、新規顧客開拓・リピーターの囲い込みのための施策や企画が、売上げの確保・維持に直結します。

販売データ分析ができる本サービスの活用が、その実現の一助になるかもしれません。

また、最後になりましたが、今後も研修委員会では、会員各社様の売上向上につながる研修会を定期的に開催すべく企画に努めてまいります。

(研修委員会 宮永将之)

第六七期第二回定時総会 第六八期定時総会報告

●第六七期第二回定時総会

去る五月一七日、一五時より日本出版クラブ会館において、自然科学書協会第六七期第二回定時総会(予算総会)が開催されました。

定刻の一五時、司会者が総会の開会を宣言したのち、南條理事長による開会挨拶



閉会挨拶を行う小立副理事長

擲が行われました。続いて司会者は定款第二八条に基づき総会議長として南條理事長を指名し総会に移りました。

議長は定款第三二条の定めに基づき本総会の議事録署名人として、曾根理事、村上理事を指名したのち、議案審議に移りました。

総会議案は、

第一号議案 第六八期事業計画書案承認の件（説明・小立副理事長）

第二号議案 第六八期収支予算書案承認の件（説明・池田理事）

第三号議案 定款変更の件（説明・飯塚副理事長）

で、議長はそれぞれの議案について説明を求め、担当副理事長あるいは担当委員長の説明ののち議決に移り、いずれの議案も満場一致で可決承認されました。

この後、議長により閉会が宣言され、第六七期第二回定時総会は滞りなく終了しました。

本総会における定款の変更により、予算に関しては理事会承認事項となり、第六八期よりは定時総会は前年度決算総会の一回開催となりました。

●第六八期定時総会

七月一九日、一七時より日本出版クラブ会館において、自然科学書協会第六八期定時総会（六七期決算総会）が開催されました。

定刻の一七時、司会者による開会宣言、南條理事長による開会挨拶の後、定款第二八条に基づき南條理事長が総会議長に指名され、総会に移りました。

定款第三二条に基づき本総会の議事録署名人として、議長より下出理事、吉野理事が指名され、議案審議に移りました。法人移行が終了した後の年度である総会議案は、

第一号議案 第六七期事業報告書案承認の件

第二号議案 第六七期事業年度決算書承認の件

第一号議案については、小立副理事長が事業報告書の詳細な説明を行った後、議長が決議を諮り、満場一致で可決承認されました。

第二号議案については、池田総務委員長が決算報告書の説明を行った後、伊藤会計監事が監査報告を行い、議長が決議を諮り、満場一致で可決承認されました。

議長による閉会宣言の後、会員報告会が行われ各委員長から報告がなされました。さらに、その後に場所を移して会員懇親会が開催されました。自然科学書協会として会員社が袋町の日本出版クラブ会館に集う最後の日となりました。

（総務委員長 池田和博）

■お知らせ

九月六日、協会事務局は一階から三階へ移転しました。

■第六七・六八期理事会・委員会開催一覧（二〇一八年五月～七月）

●理事会

・五月一七日（木）／一五時～一六時四五分
日本出版クラブ会館

・六月二二日（木）／一五時～一六時三〇分
日本出版クラブ会館

・七月一九日（木）／一五時～一六時三〇分
日本出版クラブ会館

●監事会

・六月二六日（火）／一二時～一三時一五分
文化産業信用組合

●委員会

・七月一八日（水）研修委員会／一三時三〇分～一四時三〇分
日本出版クラブ会館

・八月二八日（火）販売・出版委員会自然科学書フェア小委員会／一六時～一七時三〇分
文化産業信用組合

●その他

・五月八日（火）全出版人大会がホテルニューオータニで開催されました。

■事務局だより

〈当会代表者の変更〉

●東海大学出版部
前代表者：橋本敏明 新代表者：浅野清彦

〈代表者／当会代表者の変更〉

●株式会社メジカルビュー社
前代表者：鳥羽清治 新代表者：三澤岳

編集後記

七年前、体重の急激な増加により生活改善の指導を病院から受けた。とはいっても、スポーツジムに行く時間もお金もない。とりあえず家の周りを走ってみるからスタートした。しかし走ってみると一〇分しか続かない。あまりの体力の無さに愕然したが、それでも毎日走り続けた。「継続は力なり」。結果はすぐに始まった。始めて三ヶ月で七五キロあった体重は六八キロまでになり、走る距離も三キロから五キロ、そして一〇キロに変わり、休日は朝と夜の二回で二〇キロも走った。雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモマケズ、気が狂ったかのように走り続けた。「お茶碗とお風呂は洗ったから、テレビ見ながらゆっくりしていてね」と妊娠中の妻を家に残し、走りながら出るのが日課になっていった。そう、冷たい視線は見えなかったことにして……。しかし、その努力の甲斐もあり半年で六〇キロまでに体重を落とした。ウエストも見違えるように細くなりスーツは全て新調した。現在も回数と距離は減ったものの、シヨギングは継続している。体重もキープはしているが、油断はできない。「そしていつかはフルマラソンを！」なんて四〇歳目前のおじさんは誓うのだった。

（T・T）